



本寿院の御盆法要について

本寿院では、7月と8月 両月に合同法要を厳修しております。お参りの方は、**お位牌・過去帳をご持参の上お参りください。** お盆の様子は、住職ブログにて報告しております。

* 自宅にお盆の棚経を希望される方も、可能な限り伺っております。しかしながら、集中することから、早めにご予約ください。予約03(3772)8889

水塔婆について

■水塔婆は、お盆の間、仏壇やお位牌の横にお供えください。

水溶性の特殊な塔婆で、水に入れると溶けてなくなります。戻ってきた祖先の霊(れい)たちが、安(やす)らかに帰れるようにと、御盆が終わったころ海や川にお流しください。

■御墓のある方は、墓前にお供えください。雨と共に溶けてしまいますので、そのまま置いておかれても構いません。

当日、参列できない方は、当院でかわってご供養の上、塔婆をお送りします。ご自分の手でお供えお流しください。

●神奈川 円宗院／●群馬 広徳寺／●日光 尊星王院／●滋賀 本寿院本院等の関連寺院でも受け付けております。わからない方は、お気軽にご相談下さい。

本寿院 法事部 <http://honjyuin.com/>
〒143-0025 東京都大田区南馬込1-16-2

電話03-3772-8889 FAX03-3772-9993

新盆の方は



■新盆(にいぼん)の迎え方■

◆四十九日後、初めて迎えるお盆を「新盆(にいぼん)」といいます。※四十九日の後で初めて迎えるお盆。四十九日より前に、迎えた時は、翌年が、新盆となります。

・新盆の時は、初めての先祖の仲間入りという事もあり、親戚・知人・近親者を招き、僧侶を迎えて、丁寧に読経してもらうのがよいとされています。

・盆の期間中、家族と同じように食事を供えるようにします。これを「霊供膳(りょうぐぜん)」と言います。

◆最も丁寧な新盆の迎え方

・仏壇の前に盆棚＝精霊棚(しょうりょうだな)を設け、初物の農作物でつくったお供物(きゅうり・なす)を飾り、供養膳に精進料理を盛り、白玉・だんご・果物・故人の好物なども供えます。なお、このお供物は墓前にも供えるので用意します。

また、お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばとか軒先に新盆提灯を飾るものとされています。

仏壇がない場合は、テーブルや棚にお飾りされてもいいでしょう。



お盆のしおり

<http://honjyuin.com>



お盆を正式には、「盂蘭盆会・うらぼんえ」と言います。先祖の精霊を迎え追善の供養をする期間を「お盆」と呼びます。

・7月(東京地方)または8月の13日より16日までの4日間をさします。

・13日の夕方に迎え火を焚き、先祖の霊を迎えます。

・期間中には僧侶を招きお経や飲食の供養をします。

・16日の夕方、送り火を焚き、御先祖さまにお帰りいただきます。

「精霊の迎え方と送り方」

◆迎え火

12日夕刻か13日午前中に精霊棚や仏壇のおかざりとお供えをすませ、13日の夕刻、縁側の軒先か精霊棚のとこに吊るされた盆提灯に火をともします。

そして家の門口や玄関で素焼の焙烙(ほうろく)にオガラと呼ばれる皮をはいた麻の茎を折ってつみ重ね、火をつけて燃し、その場で合掌します。これを迎え火といい、オガラを燃したその煙に乗って先祖の精霊が家に戻ってくるのを迎えます。(最近では、おがらや焙烙等お盆セットは、スーパーなどでも手に入っているようにしています。)



◆送り火

家に迎えた精霊を今度は送り火をたいてお墓に帰っていただきます。

迎え火をたいた同じ場所で16日(又は15日)オガラをつみ重ねて送り火をたきます。

※盆明け(16日)の夕方に火を焚いて祖先の霊を帰す。これが送り火。盆送り、送り盆などとも呼ばれます。



※京都の夜を美しく彩る大文字焼はこの送り火の名残であるとされます。

◆ご家庭によっては実際に火を焚くことができない場合

もあり、そうした時には盆提灯に電気で明りを点すことや明りを入れないでただお飾りするだけで迎え火、送り火とすることもあります。

■門前に吊された提灯は、祖霊がやってくるための目印であり、またその家の中に祖霊が滞っているしるしであるとされ、鎌倉時代からこの盆提灯の風習は行われています。この盆提灯を親戚が贈るといふ風習がある地域もあります。



盆提灯について

新盆に飾る提灯には、白張りの新盆提灯と、盆提灯があります。

近親の方は毎年飾ることのできる、色柄物を贈るほうが喜ばれるでしょう。

基本的には、相手の家紋を入れ、一対にするのが正式な贈り方です。

◆お盆が終わったら・・・

色の付いている盆提灯は毎年使えるものですから、お盆が終わったら綺麗に拭いてから箱に入れて保管します。

※新盆に限り、精浄無垢の白で霊を迎える意味から白木で作られた紋天が最も多く使われます。

・新盆提灯は、お盆のあと、御焚き上げしますが、ご自分で野焼きが出来ない方は、本寿院にて承っております持参されるか、お送りください。



盆踊りは、戻ってきた精霊を慰め、送り出すために催されます。

また、戻ってきた霊が供養のおかげで成仏できた喜びを踊りで表す、ともいわれます。

私たちが、祖先に感謝し生きていることの喜びをご先祖と共に踊ると考えてもよいでしょう。

◆盆棚について

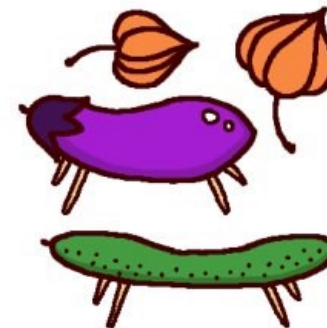
お位牌の前には、なすの牛やきゅうりの馬を供えます。

これは先祖の霊が「きゅうりの馬」に乗って一刻も早くこの世に帰り、「なすの牛」に乗ってゆっくりあの世に戻って行くようにとの願いを込めたものといわれています。



そのほか、香・花・灯明・浄水・盛物・果物・野菜、それに、そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などを供えます。

また、洗った米に、なす・きゅうりなどを賽(さい)の目に刻んだものを混ぜて、蓮の葉の上に盛り付



けた、水の子と呼ばれるものも供えます。

花も季節の和花を生けるようにします。

盆棚を設けるスペースがない場合は、仏壇で精霊棚を兼ねます。仏壇の上部にホウズキを飾り、手前にマコモのゴザを敷き供物類を供えます。